

## 西原小合唱部が九州合唱コンクールで銀賞を受賞

西原小学校（瑞慶山良常校長）の合唱部が9月10日から12日に佐賀県で開催された第65回九州合唱コンクールに県代表として出場、見事銀賞に輝きました。コンクールに引率した安次嶺陽子教諭は「感動を与える合唱を目指して練習してきた。子どもたちは本番ですばらしい歌声を披露してくれた」と生徒の快挙を喜び、出演者の一人、武田千穂さんは「九州の大舞台で不安もあったけど、練習の成果を思いっきり表現できた」と嬉しそうに話してくれました。



## 仲里知夏さんが自然環境の保全を目指しメキシコへ—JICAボランティアで青年海外協力隊に参加—

青年海外協力隊等の国際協力活動を目的とするJICAボランティアの派遣事業でメキシコへ派遣されることになった、仲里知夏さん（字森川在）が出発前に町役場を訪れ、意気込みを語りました。仲里さんは琉球大学在学中のメキシコ留学経験がきっかけで、ラテンアメリカ社会への貢献を希望しての参加とのこと。メキシコの自然を生かした環境教育の分野での活動が予定されており、派遣を前に「豊かな自然を守り、生かせる観光産業の発展に寄与したい。将来は観光立県沖縄とラテンアメリカ観光の架け橋として貢献したい」と意気込みを語りました。



## 手作りの紅型タペストリーを寄附

「さわふじの花」や「さわふじ音頭」などを歌う歌手の林美侖（りんみれい）さんが、自ら作成した紅型タペストリーを寄附するため、9月29日町中央公民館を訪問しました。林さんは10年以上前から町商工会などと協力してさわふじを活用した地域おこしに協力、この度寄附したタペストリーもさわふじをモチーフに、色鮮やかなつくりになっています。自宅の工房で、約5ヶ月かけて作成したというタペストリーを贈られ、寄川順美公民館長は「町民に触れられるような、実用的な形で活用したい」と感謝を述べました。



# まちの話題

## 西原中、坂田小校区で西原町学校支援地域本部を設置

町教育委員会は地域全体で学校教育を支援する体制づくりを目指し、西原町学校支援地域本部を設立し、9月29日に第1回実行委員会を開催しました。同本部は、地域の大人と子供のコミュニケーション、教員の教育活動の推進、地域の教育力の向上の3つの柱を掲げ、西原中と坂田小の2校を拠点に、各校に配置されたコーディネーターが連携の仲介役となり、学校関係者や地域が協力して取り組みます。設置に先立ち、垣花教育長は「関係者が連携して地域を支える体制の構築が期待できる。地域の力を教育の場に生かせるよう頑張りたい」とあいさつし、委員にエールを送りました。



## 「子どもたちに居場所作りを」元暴走族総長の講演会を開催

元暴走族のリーダーから更生し、現在は不登校児や非行少年の立ち直りの支援に取り組んでいる田川ふれ愛義塾理事長、工藤良さん（福岡県）の講演会が9月27日、町中央公民館で開催されました。少年時代に非行に走った工藤さんは自分の世話を焼いてくれた先生の影響で更生を決意。さらに、同じ境遇の若者を支援する活動に取り組み始め、現在は子どもたちの駆け込み寺として「田川ふれ愛義塾」を運営しています。工藤さんは講演で「子どもは、最後まで面倒を見てくれたのは誰かを見抜いている。たった一人でも本気でその子を心配する大人がいれば、悪いことを前にしても、その人の顔を思い出しブレーキがかかる」と体験を元に話し、「保護者や子どもたちが、いま自分ができることを精一杯行うことが大切」と、応援のメッセージを送りました。講演会には約200人が出席、工藤さんの体験や現在の取り組みについて学びました。



## グループホームさわふじがにぎやかに敬老会

9月20日にグループホームさわふじ（字小波津）で敬老会が開催され、利用者の家族や地域からたくさんの方が参加しました。グループホームさわふじは、主に認知症の高齢者の生活を支援する介護老人ホームで、現在9名が入所しています。小規模でアットホームな施設同様に、敬老会もスタッフやボランティアの手作りで華やかに行われ、利用者の表情からは笑みがこぼれていました。施設管理者で、ケアマネージャーの仲宗根ルミさんは「利用者の家族や地域の協力で、入居者にとって楽しい施設の運営が実現できる」と感謝を述べました。また、敬老会に参加した上間町長が、町内在住の満80歳以上の方に支給する敬老祝金を利用者全員に贈呈しました。



## 西原小学校にヤギがやってきた！

西原小学校（瑞慶山良常校長）で、1年生4クラスを対象に9月27日と28日の2日間ヤギとのふれあい授業が行われました。ふれあい授業は、與那嶺正さん（字小波津）の「子どもたちにふれあいの機会を持ってほしい」という提案で実現。児童は與那嶺さんの飼う母ヤギ1頭、子ヤギ2頭を活用して、生活科の授業の「いきものだいすき」という単元でふれあい授業を行いました。子どもたちの持つえさをヤギが食べ始めると、「食べてくれた！」と大喜び。担任の先生は「ヤギと触れ合うことで子どもたちが生き物の大切さを学ぶことができ、心の教育につながる」と語りました。【動画】町HP「さわふじチャンネル」公開中



## 西原町からなぎなた国体選抜に多数選出！

ゆめ半島千葉国体のなぎなた競技において、沖縄県代表6選手のうち西原町から4人選出されました。選ばれたのは少年の部（高校生）女子の石原舞子さんと城間望さん（ともに首里高3年）と、青年の部（一般）女子の末吉梓さんと甲斐田美根子さん。県なぎなた協会の関係者は「これまで県代表は南部地区の選手が多かったが、西原町からこれだけ選ばれたのは記憶にない」と驚きの表情でした。なぎなた競技は9月25日から27日にかけて行われ、少年女子試合で県代表が海邦国体以来23年ぶりの優勝という快挙を達成しました。【動画】町HP「さわふじチャンネル」公開中



国体に向け強化練習に取り組む選手たち

## 下水道の拵続率向上を呼びかけ—「下水道の日」広報パレードを実施—

下水道に対する理解の高揚と接続率の向上を図るため、9月10日の下水道の日に事業推進パレードが実施されました。パレード隊は西原町・南城市・与那原町・中城村で構成され、中継地点の西原町役場で受け入れセレモニーを行いました。受け入れに際して、城間正一副町長が「下水道の普及は、公共用水域の水質汚濁の防止が図られ、私たちの生活環境の改善が期待できる。頑張りたい」とパレードを激励しました。



## 翁長自治会の放送設備がリニューアル

翁長自治会（仲宗根武会長）は、宝くじの普及広報事業「平成22年度一般コミュニティ助成事業」を活用し、自治会の放送設備の整備を行いました。今回の事業により、これまで整備されていた下翁長地域に加え、坂田保育所や坂田交差点の周辺に向けて一斉放送の案内が可能になりました。仲宗根会長は「日々の親や子どもたちへの呼びかけが広範囲でできるようになり、地域の安全管理が期待できる」と今後の効果に期待していました。

